

岡山大学広報

いちよう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY

SDGsを学ぶ国際拠点 岡山大学での新たな学び

— SiEEDプログラム —
— CLSプログラム —

Vol. 92

2019

CONTENTS

岡山大学の研究誌
テラヘルツ工学 紀和利彦
広い世界で活躍する岡山大学の学生たち
70周年特別版 HISTO+REAL
小長啓一氏へ、特別名誉会員の称号を授与
OU NAVI



岡山大学での新たな学び

プロگرام始動!

Intrapreneurshipの融合

改革者精神

SIEEDプログラムは、よくある「起業を目的」としたプログラムではありません。最も重要視しているのは、起業家を持つ「Transferable Skills」(異分野を結び、柔軟な発想で考える新しい概念・手法)などのマインドを涵養することです。このマインドは、激しく変化する社会において、未知の課題を発見し、それを解決する手法を設定・実施するチャレンジャー精神と既存の組織内から変革していくという精神に結びつきます。昨年12月東京都内で開催した共同記者会見で榎野学長は、「SIEEDで教職員・学生の意識改革を行う」と話しました。事実、SIEEDプログラムを作り上げるために、本学では全学を挙げて取り組み、教職員から成るワーキンググループで議論してきました。

アントレプレナーとイントラプレナー。その双方を育成する意図とは?

Entrepreneur

Intrapreneur

SIEED(シード)は「STRiPE Intra & Entrepreneurship Empowerment and Development」の頭文字から取ったもの。技術革新が加速する現代において、必要とされる起業家精神(Entrepreneurship)と組織内から改革する精神(Intrapreneurship)の双方を育成することを目的に、さまざまな最新手法を導入した実践的プログラムです。ディレクターとして、プログラム設計・講師を務めるのは、SVVILLICの日本代表として国内外のスタートアップを支援している山下哲也氏です。

SIEEDとは何か? 起業が目的ではない。未知の問題を発見し、未知の解決法を自ら創造する力を涵養。



profile

那須 保友 理事(研究担当)・副学長
SIEED-Okayama
起業家精神養成学講座 前代表
(なす やすとも)

昭和56年岡山大学医学部卒業。専門は泌尿器科学で、遺伝子治療、内視鏡手術(腹腔鏡、ロボット手術)に積極的に取り組んでいる。我が国初の前立腺がん遺伝子治療を岡山大学で実施した。現在は、母校の教授を務めながら研究科長として医療系キャンパスの教育・研究の先頭に立つ(4月1日より、研究担当の理事・副学長)。岡山大学発の遺伝子治療薬の開発を目指し、ベンチャー(桃太郎源社)の立ち上げ・運営に深く関与したことをきっかけにSIEEDにかかわるようになった。

2019年、岡山大学で2つの新たな教育プログラムが始動した。起業家精神と改革者精神を養成する『SiEEDプログラム』。そしてもう一つは、全米トップレベルの大学生・大学院生が日本語を集中的に学ぶ、米国務省の『重要言語奨学金(CLS)プログラム』。

岡山大学は、SDGsを学ぶ国際拠点として、新たなアプローチで、将来のリーダー育成を目指す。

**なぜ、岡山大学なのか？
SiEEDプログラム立ち上げに尽力した、
前講座代表の那須理事に話を聞いた。**

**ESD、SDGs、そしてSiEED…
そこに可能性の海があるから。**

2019年4月、岡山大学と株式会社ストライプインターナショナルは、岡山から未来創造に向けた学びの場を通して、新たなビジネスの創出を目指すSiEEDプログラムを設置しました。

よく皆さんに質問されるのですが、なぜSiEEDプログラムを岡山大学、岡山の地で実施するのかという点については、「ストライプインターナショナルの本社が岡山市にある」、「石川康晴社長が本学の卒業生である」という、単純な理由ではありません。

これまで本学は、総合大学として幅広い学問領域を築き、実践的な教育・研究・社会貢献活動を続けてきました。2007年に、ユネスコチニアに認定され、2016年には、本学も参画する「岡山ESDプロジェクト」が「第2回ユネスコ/日本ESD賞」を受賞するなど、世界のESDを先導してきました。加えて、2017年には政府主催の第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を国公立大学で唯一受賞するなど、実績を積み重ねています。

岡山大学と岡山の地が精力的に取り組んできたESDとSDGsに、SiEEDプログラムが結びつくことにより、新しいアプローチで社会貢献・大学改革を加速できるものと信じています。

SDGsを学ぶ国際拠点

岡山大学SiEED

Entrepreneurshipと

起業家精神

大学で実施するプログラムは、学生を対象としたものが多く、SiEEDも学生が参加しますが今回はそれだけではなく、役員や部長、教職員など、大学組織の人達も参加することになります。「組織内から改革する精神(Intrapreneurship)」を身につけて、教職員の意識改革を強化・促進するという観点からもSiEEDは大学改革を加速する重要な柱と成り得ます。

**初めての講義で起きた拍手。
これからも「不易流行」のスピリットで。**

今年4月から2019年度1・2学期の教養教育科目に4科目を開講しています。特筆すべきは、SiEEDプログラムには単位が付与され、これは数ある寄付講座の中でも初めての試みです。私自身も驚いたのですが、なんと初日の第1回講義(基礎プログラム)は立ち見ができるほどの盛況ぶり、講義が終わった後、学生達から拍手が起ったそうです。

そうしたレスポンスを聞いて、改めて思ったのが「鉄は熱いうちに打て」。これからも「不易流行(変えてはいけない本質的なマインド)を身に付けつつ、変えるべきものは大胆に変えていく」の精神で、学生達にしっかりとSiEEDプログラムの真意を伝えていきたいと思えます。ちなみに余談ですが、私が身に付けている蝶ネクタイとストライプシャツは「今までのイメージを変える決意」を自ら率先して現したものです(笑)。SiEEDプログラムの今後にぜひ注目ください。



山下ディレクターによる講義の様子



SiEEDプログラム立ち上げメンバー
(左から)鈴木真理子助教、那須理事、山下ディレクター、
伊野英男副理事(現講座代表)



グローバル・ディスカバリー・プログラム1年
藤本貴太郎

①地元岡山への外国人移住者の増加・促進に関わる仕事に就きたいと考えています。そのためには、時代の最先端を知ること、追い続けることが重要だと感じています。ベストな環境で仕事に取り組むために「起業」という道が頭にあったことに加え、「SIEED Conference 2019」の内容の濃さに圧倒されたこともあり、受講しました。

②受講生の中には学外者や社会経験のある方もいます。そのような方の意見を聞くことでさまざまな視点からの考え方を吸収できるのも特色です。授業を通して「誰も思いつかない意見を持ちたい」と考えるようになりました。高校生の参加も意義があると思います。

③夢の実現には、SIEEDの授業で扱うIT関連の知識や起業家精神が不可欠です。国際的に活躍するため、先入観を捨て、常に柔軟な考え方を身につけたいです。



工学部4年
長谷川直哉

①以前からバーの起業や運営に関わり、起業家の方々と交流を通して「起業」を身近に感じています。起業に意欲的な学生たちと一緒に学び、知識を深めながら、人脈を広げたいと思い受講を決めました。

②未知のものに触れるワクワク感が魅力です。第2回目の講義では、「自分が今、1999年の中国にいたら何をするか」をテーマに、ディスカッションや発表をしました。自分で考えるだけでなく仲間と想像を広げることができ、刺激をもらっています。

③山下ディレクターから、バーの運営やスタートアップについてアドバイスをいただき、早速実践しています。卒業後は大学院進学を考えていますが、在学中はバーの運営は続けていきたいと思っています。将来的には起業も考えています。ITベンチャーにも興味があり、授業を通して夢がどんどん広がっています。



グローバル・ディスカバリー・プログラム1年
木村莉紗

①もともと起業に興味を持っていたこと、「なんだかおもしろそうな授業!」というイメージを持ったので、受講しました。

②一方向的な講義とは異なり、学生に問いかける形式の授業になっています。受講者全員が意見を述べる機会があり、一人一人違う意見を持っていて、それを共有できるところが魅力のひとつです。毎回の授業が楽しみです。

③世界各国に店舗を展開しているような企業に就職したいと考えています。授業を通して、多面的に考える力を身につけ、視野を広げていきたいです。自分の中のアイデアをどんどん増やすことが目標です。



グローバル・ディスカバリー・プログラム1年
上野優花

①サービス業のアルバイトを通して、接客が向いていることを実感しています。お客様との会話をより充実させるためにも、「ビジネスのことを学びたい」と思い受講しました。

②先生がアイコンタクトをしっかりととりながら、授業を展開してくれる、これまでにない形式の授業です。「考える」ということを大切にしている授業で、授業中は「脳がフル回転しているな」と感じます。

③人と話をするのが好きなので、まずは、授業を通して学んだ知識を、人に伝えることから始めてみようと思います。「相手を知るために、まずは自分から心を開いて話しかける」をモットーに、得意な英語も生かしながら伝えていけたらと考えています。

- ①受講しようと思ったきっかけ
- ②授業を受けて感じたこと
- ③授業で学んだことをどう生かしていきたいか

講義動画配信中/
▶SIEEDプログラムはオープンな学習プログラムを目指し、講義動画を配信しています。



- ② 革新的起業と先端技術
—世界を変えるイノベーション—
- 第1週: オリエンテーション 本科目のプログラム構成・学習方法の解説
 - 第2週: コアとなるIT モバイル/5G・IoT/ソフトウェア・デバイス
 - 第3週: AI技術 機械学習・深層学習
 - 第4週: 自動運転・ロボティクス
 - 第5週: 遺伝子工学、バイオメディカル
 - 第6週: FinTech・仮想通貨
 - 第7週: 政府・公共機関におけるイノベーション
 - 第8週: まとめとふりかえり さらになる学習方法の紹介

- 講義スケジュール
- SIEEDプログラムの学習内容は、基礎編と応用編で構成されています。基礎編では起業家の実例を通して「起業家精神」の基礎を学んだほか、イノベーションを生み出す構造と特徴をアントレプレナーの視点から学びました。8月の応用編では、起業やビジネス開発のための実践的な手法を学びます。
- 講師 山下哲也ディレクター(SVILL日本代表)
- ① 基礎編
アントレプレナーシップ入門
- グローバル市場における最先端の起業家精神—
- 第1週: オリエンテーション 本科目のプログラム構成・学習方法の解説
 - 第2週: 「新しい当たり前を創る」世界のアントレプレナーの紹介
 - 第3週: 「Entrepreneur Journey」 創造・起業・成長・成熟のサイクル
 - 第4週: 「WELLの重要性」 課題設定の大切さ
 - 第5週: 「Launch First」 まず、創り、試すことが大切
 - 第6週: 「Money, Money, Money」 収益資金調達 投資家
 - 第7週: 「HARD THINGS」 スタートアップとリスク
 - 第8週: まとめとふりかえり さらになる学習方法の紹介

SIEED Conference 2019 Report / 4.6 (sat)

プログラム開講に先駆け、講座のビジョン・コンセプトに触れる場として、新たなZeitgeist(時代精神)を語り合うカンファレンス「SIEED Conference 2019」を開催。本学学生や教職員、企業、自治体関係者のほか、小・中・高校生らの参加もありました。世界・各分野で活躍するイノベーターと聴衆による自由討議を通じて、「未来を創造する新しい形と力」に触れる、熱気溢れるイベントとなりました。



第1部 —シリコンバレーのスタートアップの今—

オープニング: 横野博史(岡山大学学長)
スピーカー: Phil Libin氏(Ali Turtles創業者・CEO、Evernote 元CEO)
モデレーター: フォーリー淳子氏(大同門株式会社代表取締役社長、シルバーエッグ・テクノロジー株式会社共同創業者)
アートパフォーマンス: 山地真美(音楽家)ピアノ演奏 [2018 Okayama Award受賞]

第2部 —思考の幅を広げる新たな挑戦—

スピーカー: 福原志保氏(バイオアーティスト)
草本朋子氏(白馬インターナショナルスクール設立準備財団代表理事)
モデレーター: 外村仁氏(SIEEDエグゼクティブアドバイザー、スクラムベンチャーズ パートナー)

第3部 —SIEED Programとは—

スピーカー: 石川康晴氏(株式会社ストライプインターナショナル 代表取締役社長)
那須保友(岡山大学理事「研究担当」、SIEED-Okayama 起業家精神養成学講座 前代表)
トリアル講義受講生: Hoang Thanh Tuさん、Pandita Suthampornさん(グローバル・ディスカバリープログラム)
モデレーター: 山下哲也氏(SIEEDディレクター、SVILL LLC 日本代表)



国立大初! 米国務省「重要言語奨学金」 受入先に採択



NEWS

全米トップレベルの大学・大学院生が日本語と日本文化を集中的に学ぶ、米国務省の「重要言語奨学金（CLS）プログラム」の受入先に、国立大学として初めて本学が採択されました。来日するのは、国務省により全米約550人の応募者から選抜された26人。6月14日～8月10日の8週間にわたり、日本語を中心とした授業を行うほか、地域の自然や歴史に触れるなど、文化交流体験を行います。

さまざまな専門を持つ留学生に対応できる総合大学のメリットに加え、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）を推進していることなどが評価されました。また、第二次世界大戦後、ダグラス・マッカーサーによって、日本研究のフィールドとして岡山の地が選ばれ、1950年に岡山市に「ミシガン大学 Okayama Field Station」が開設されたことなど、岡山が日本文明の揺らんの地であったという歴史的背景なども採択の後押しとなりました。



前アメリカン・カウンシルズのローン・クレナー理事長(中央)表敬訪問

プログラムの運営・実施のため連携強化と、「ミシガン大学 Okayama Field Station」の70周年に向けた記念シンポジウムの企画提案を行いました。CLSプログラムのキックオフプログラムとして、本学で開催することで合意しました。

アメリカン・カウンシルズ 本部訪問

SDGs推進のビジョンや取り組み、国立大学として唯一「第二回ジャパンSDGアワード」特別賞を受賞したことなどを紹介しました。SDGリーダーディング大学としての活動報告を通して、CLSプログラムの派遣先として本学で学ぶことの意義や魅力を伝えました。



米国務省・教育文化局(ECA)訪問

米国務省訪問

キックオフ会合

プログラム採択を受け、榎野博史学長、横井篤文副学長(特命担当(海外戦略))は昨年12月、米国務省およびアメリカン・カウンシルズを訪問しました。

What is CLS ?

米国務省のCritical Language Scholarship(重要言語奨学金)を受けた教育プログラム。国家安全保障や経済発展の観点から重要な役割を果たす、ロシア語や中国語など世界15言語の人材養成が狙いで、国内では2010年に受け入れがスタート。国際教育・交流を専門とする米非営利団体 American Councils for International Education (アメリカン・カウンシルズ)が運営。

Program Schedule

日本語の講義のほか、2泊3日のホームステイや文化交流体験などさまざまなプログラムを予定しています。留学生のサポートや行事運営は、本学の学部生・大学院生が中心となり実施します。

6月

歓迎式典・曹源寺・大原美術館・資源植物科学研究所、環境理工学部(ヒオトロープ)・犬島・松琴寺訪問

7月

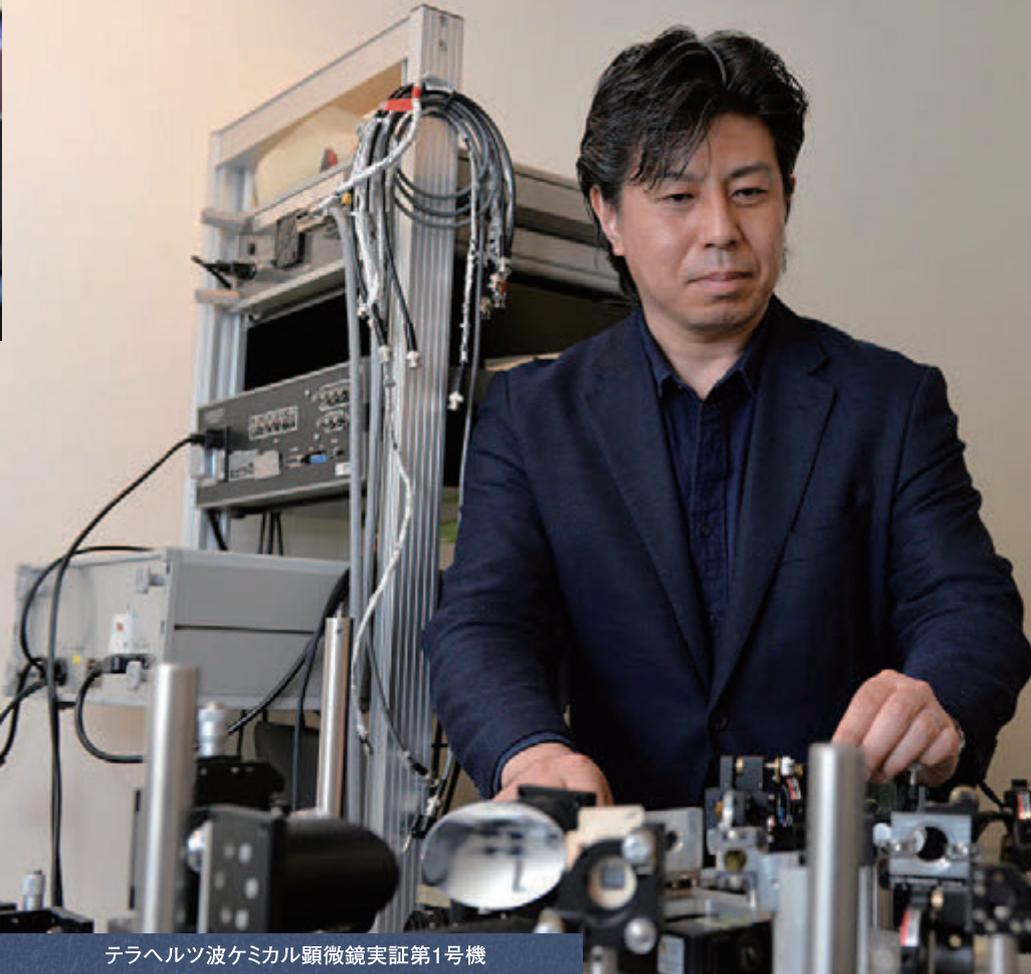
西川緑道公園シンポジウム・創立70周年記念シンポジウムへの参加、真庭市訪問、NPO法人インターキッズ国際塾生との交流、地域住民との交流、株式会社林原訪問、2泊3日のホームステイ、天満屋陸上競技部との交流

8月

おかやま桃太郎まつり
うらじゃへの参加、修了式

テラヘルツ工学

紀和利彦



テラヘルツ波ケミカル顕微鏡実証第1号機

独自に開発したテラヘルツ波ケミカル顕微鏡。その未知なる可能性を追い求めて。

2 019年3月4日、岡山大学は、テラヘルツ波ケミカル顕微鏡を用いて、1 mL中に含まれるわずか10個の乳がん細胞を高感度に検出することに成功したと発表した。

この研究は、大学院ヘルスシステム統合科学研究科の紀和利彦准教授らと、カナダのケベック先端科学技術大学院大学(以下NRG)の尾崎恒之教授、カールトン大学のM. C. DeRosa 教授、W.G. Willmore教授との共同研究グループによるもの。研究成果は、欧州の科学雑誌「Sensors and Actuators B」のオンライン版に2月15日付で掲載された。テラヘルツ波とは、電波と光の中間の周波数を持ち、1秒間に1兆回振動する(周波数が1兆ヘルツ程度)電磁波で、高い透過性を持つことから、物質を破壊せずに性質を調べるのに適している。

「テラヘルツ波ケミカル顕微鏡は、私たちのグループが独自に開発したテラヘルツ顕微鏡のひとつで、化学反応の分布を可視化することができます。がんマーカーによる早期診断は、低侵襲かつ迅速簡便な診断方法として期待されていますが、がんマーカーの検出には、特定のがんマーカーを認識し、結合する物質の開発が不可欠です。今回、同顕微鏡に特定の物質と特異的に結合して細胞やタンパク質の機能を阻害する核酸分子「アプタマー」を適用することで、乳がん細胞の高感度での検出に成功しました。これにより、高速に異常細胞を検出でき、創薬の開発期間短縮が期待されます。もう少し精度を上げることができれば、「1滴の血液から100種類の血液診断」というのも可能になるかもしれません」と語る紀和利彦准教授。

岡山大学とNRGは、2016年に大学間協定を締結し、同顕微鏡の高精度化と産業応用探索を行ってきた。一方、NRGとカールトン大学は、「アプタマー」を新規に開発。今回の画期的な成功は、各々が取り組んだ研究成果の結晶といえる。

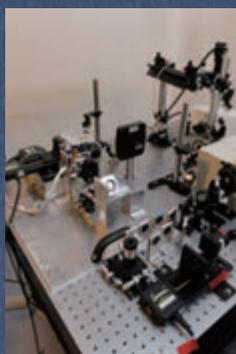
2011年

応用物理学会テラヘルツ電磁波技術研究会・委員長として「第一回テラヘルツ若手サマースクール」を岡山県美作市で開催。全国から学生、若手研究者が集まりテラヘルツ波工学に関して熱い議論を交わした。



2012年

テラヘルツ波ケミカル顕微鏡実証第1号機完成。



2016年

実施責任者としてNRGとの大学間協定を締結。





今まで計れなかったものを
正確かつ簡単に「計測」したい。
それが研究の原点。

なぜ、テラヘルツ波に着目したのかを紀和准教授に尋ねてみた。

「私が学生の頃、最先端の技術として注目されていたのが『超伝導』。その『超伝導』を研究する中で可能性を感じたのが『テラヘルツ波』です。物理学的には、光の“粒子性”と“波動性”をうまく使い分けることで、初めて計測できた領域だったので、興味深かったですね。当時、テラヘルツ波は研究者の間でもほとんど知られておらず、そのような『未踏の光』を役に立てるようにしたいと思ったんです。私が研究しているのは、いわゆる『計測』です。今まで計れなかったものをもっと正確かつ簡単に計れるよ

うにする『計るための道具』として着目したのが超伝導やレーザー、そしてテラヘルツ波なんです」と紀和准教授は振り返る。

「計測」という意味では、テラヘルツ波ケミカル顕微鏡を使った具体的な取り組みとして現在、医療の診断用・リチウムイオン電池などの診断・化粧品品質評価など、さまざまな産業分野で実用化が進んでいる。

がん治療薬の開発をはじめあらゆる可能性を追い求めて。

最先端の医薬品はタンパク質で作られる。それらは「抗体医薬」と呼ばれ、病気になるタンパク質だけにピンポイントで作用する。がん治療用の抗体医薬なら、がん細胞に対しては強力な効果を持ちつつ、他の正常な細胞にはほとんど影響

をもたらさない、副作用の少ない薬となる。

「私たちの研究グループが開発したテラヘルツ波ケミカル顕微鏡により、今後早期診断に必要な新規がんマーカーの網羅的な発見が実現するものと予想しています。同時に、新規医薬品の開発期間が大幅に短縮する可能性もあります。それに加えて、顕微鏡は今回成功したがん細胞の検出だけでなく、抗体反応の検出やイオンの検出など、生体に関連する物質の検出にも成功しています」。

テラヘルツ波ケミカル顕微鏡が秘めた無限の可能性。未知なる成果を追い求めて、紀和准教授の研究は続く。

もともと奈良県出身の紀和准教授。現在の研究環境や岡山の印象について尋ねると…

「岡山は奈良と似ている気がします。一見、敷居は高いけれど、親しくなるととことん付き合ってくれる。実際、岡山のさまざま

な企業と共同で研究開発を進めていますが、息の永いお付き合いができていますね。岡山大学には異分野融合や産学連携を生み出す柔軟な土壌があると私自身は感じています」。

紀和利彦

准教授

大学院ルネサンス統合科学研究科

profile

〈きわとしひこ〉

1976年生まれ。奈良県出身。大阪大学工学部卒。大阪大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門はテラヘルツ波学、超伝導工学。大阪大学学振特別研究員、岡山大学工学部講師、同大学院自然科学研究科准教授などを経て2018年より現職。第16回応用物理学会講演奨励賞(2004)、第13回村川・難波技術奨励賞(2018)、第1回岡山テックプラングランプリ最優秀賞(2018)など受賞多数。

「第1回岡山テックプラングランプリ」で最優秀賞・ガット賞をダブル受賞。

紀和准教授は2018年11月17日、「第1回岡山テックプラングランプリ」(主催:株式会社中国銀行・株式会社リバネス)で最優秀賞・ガット賞をダブル受賞した。

本グランプリは、株式会社リバネスが立ち上げたテックプラント事業の一環として開催。地域発の技術をベースとして大学・研究機関などから生まれた研究成果が、自立のかつ継続的に社会で実装され、地域の産業を育むことを目指しているもので、独自に開発したテラヘルツ波ケミカル顕微鏡の技術が評価され、今回の受賞に至った。



2017年

大会委員長として、「国際会議MTSA 2017 OptoXNano-TeraNoG」を岡山「バンブー」センターで開催。大会の様子は「Nature Photonics」に掲載される。



2018年

大学院自然科学研究科(工)寺西貴志准教授と共同でテラヘルツ波によるリチウムイオン電池電極電位分布計測に成功。

テラヘルツ波を用いて、超微量液体のpH計測に成功。低侵襲血液検査の実現へ向けた歩となる。

中国経産局「戦略的基盤技術高度化支援事業」採択(6月4日付)

2019年

考古学

大学院社会文化科学研究科

中川朋美さんが「育志賞」を受賞。

「縄

文・弥生時代の人骨に残った傷跡を分析・考察してみると、人類が抱く『暴力』への認識が生存環境の変化とともに変わっていくのが分かります。例えば『暴力』で亡くなった方への弔いの意識は、時代を経るとともに手厚くなっています。こうした変化は、お墓の大きさや埋葬法、副葬品などから読み解くことができます」と話すのは本学大学院社会文化科学研究科(文学系)の中川朋美さん(博士後期課程)。

中川さんは今回、独立行政法人日本学術振興会(SPS)が実施する第9回日本学術振興会育志賞を受賞した。将来有望な大学院生に贈られる同賞には、2460の大学および学術団体に対して候補者の推薦依頼があり、最終的に155人の候補者の中から選考を経て、18人の受賞者が決定した。

中川さんは、松本直子教授の指導のもと、「先史時代から国家成立期における暴力の文化的背景」というテーマで研究。これまで遺跡出土人骨の受傷痕跡の分析を精力的に進め、学会や論文で発表するほか、教員とともに学会運営や学生指導にも熱心に取り組んできた。

「私にとって研究とは、生活そのもの。何かひらめいたらパソコン、何か気になったら本を開く...といった感じですね」と笑う中川さん。今回の受賞に関する感想を尋ねると「素直に、認められてうれしいです。研究は日々地道な

活躍する



道

学生たち



私にとって研究は生活そのもの。

今回の受賞は、先へ進む大きなステップ。

作業の積み重ねですから、時折迷いが生じることもあります。そういった意味でも今回の受賞はこれから先へ進むための大きなステップになりました」と話す。本研究科は発掘調査などのフィールドワークも積極的に行っており、研究を続けていく上での環境は整っていると中川さんは続けた。「今回の受賞でいただいた喜びと栄誉は、今後の研究成果でお返ししたい」と決意を新たにしている中川さん。考古学・形質人類学の研究者として、彼女の今後の活動に注目したい。

日本学術振興会育志賞

上皇陛下が平成21年の御即位20年にあたり、若手の研究者を支援・奨励するため日本学術振興会に贈られた下賜金を元に創設。将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院生を顕彰すること、その勉学および研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的に平成22年度に創設したものである。

中川 朋美

なか がわ とも み
大学院社会文化科学研究科



鳥取県岩伏し遺跡発掘調査(2018年9月)



授賞式会場にて

HISTO+REAL

HISTORY OF OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学が歩んだ歴史



1949- 岡山大学の70年

54年10月	52年4月	51年5月	51年4月	48年4月	46年4月	44年4月	40年4月	40年3月	39年4月	35年4月	30年4月	28年7月	24年5月	21年4月	昭和14年7月	13年4月	11年4月	大正3年7月	33年3月	7年6月	明治3年4月
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------	-------	-------	--------	-------	------	--------

昭和 大正 明治

- 岡山藩医学館を創立
- 温知学校を創立
- 第六高等学校を創立
- 財団法人大原奨農会農業研究所を創立
- 岡山県実業補習学校教員養成所を創立
- 岡山県女子実業補習学校教員養成所を創立
- 岡山医科大学三朝温泉療養所を創立
- 岡山農薬専門学校を創立
- 岡山大学創立**
- 農業生物研究所を設置
- 大学院医学研究科を設置
- 工学部を設置
- 大学院理学研究科を設置
- 教養部を設置
- 岡山大学養護教諭養成所を附置
- 附属図書館時計塔が完成
- 法文学部に法文学部第一部を設置
- 大学院農学研究科を設置
- 大学院文学研究科を設置
- 大学院工学研究科を設置
- 大学院薬学研究科を設置
- 養護教諭特別科を設置
- 医学部から薬学部を分離
- 大学院経済学研究科を設置
- 歯学部を設置



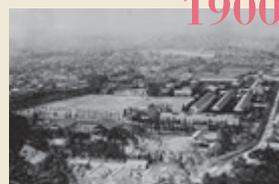
昭和35年4月
工学部を設置

1960



昭和30年4月
大学院医学研究科を設置

1955



第六高等学校全景(操山の上から)

1900



昭和40年3月
附属図書館時計塔が完成

1965



岡山大学第一期卒業生(昭和28年)

1953



大学誘致に懸ける
県民の熱意を伝える
山陽朝報(昭和23年1月26日付)

1948

1949



昭和54年10月
歯学部を設置

1979



昭和24年 岡山大学創立(開学記念式典)



昭和24年
岡山大学創立(開学当時のキャンパス)

戦後間もない昭和24年5月31日、新制岡山大学は発足しました。発足に際しては、地元岡山県を中心にした総合大学誘致運動による募金活動や署名活動があり、大学設立を熱く後押ししていただきました。当初5学部（法文学部、教育学部、理学部、医学部、農学部、医学部附属病院、放射能泉研究所、附属図書館）でスタートした岡山大学は、工学部、薬学部、歯学部を次々と開設します。昭和55年には、法文学部を文学部、法学部、経済学部の3学部に分離・改組、平成6年に環境理工学部を設置し、11学部を有する日本屈指の総合大学へと発展します。平成16年の法人化を転機とし、大学改革を進めることで、世界に伍する大学を目指しています。今回は、岡山大学の70年の歴史を、年表と写真で振り返ります。

動画でも
ご覧いただけます



55年4月	55年4月	61年4月	61年4月	61年10月	62年4月	平成3年4月	5年4月	6年9月	6年10月	13年4月	15年4月	16年4月	17年4月	18年4月	19年4月	24年4月	28年4月	29年10月	29年12月	30年4月
-------	-------	-------	-------	--------	-------	--------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	-------

平成

- 法文学部から**文学部**、**法学部**（同第一部）、**経済学部**（同第一部）を分離改組
- 大学院教育学研究科を設置
- 大学院歯学研究科を設置
- 岡山大学医療技術短期大学部を併設
- 大学院自然科学研究科を設置
- 特殊教育特別専攻科を設置
- 大学院文化科学研究科を設置
- 教養部を廃止
- 環境理工学部**を設置
- 大学院医歯学総合研究科を設置
- 大学院保健学研究科を設置
- 岡山大学創立五十周年記念館が竣工
- 国立大学法人岡山大学へ移行**
- 大学院法務研究科を設置
- 大学院保健学研究科を設置
- 大学院環境学研究科を設置
- 大学院医歯薬学総合研究科を設置
- 大学院社会文化科学研究科を設置
- マッチングプログラムコースを設置
- 特別支援教育特別専攻科を設置
- 大学院環境生命科学研究科を設置
- 異分野基礎科学研究科を設置
- グローバル・ディスカバリー・プログラムを設置
- 第1回「ジャパンSDGsアワード」の特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞
- 大学院ヘルスシステム統合科学研究科を設置



2003
平成15年4月
岡山大学創立五十周年記念館が竣工



2016
平成28年4月
異分野基礎科学研究科を設置



1994
平成6年10月
環境理工学部を設置



2017
平成29年10月
グローバル・ディスカバリー・プログラムを設置



2017
平成29年12月
「SDGsパートナーシップ賞」を受賞



2018
平成30年4月
大学院ヘルスシステム統合科学研究科を設置



2004
平成16年4月1日
国立大学法人岡山大学設立式

岡山大学1期生 岡山大学Alumni(全学同窓会)会長

小長啓一氏へ、特別名誉会員の称号を授与



授与式での小長氏(右)と横野学長(左)、中央レリーフは上田久利名誉教授制作



岡山大学では、本学の発展のため、多大な尽力をされた方に感謝し、その貢献を顕彰するために名誉会員の称号を授与している。なかでも「特別名誉会員」は格別の貢献があった方を顕彰する称号である。このたび、本学1期生で、岡山大学Alumni(全学同窓会)会長でもある小長啓一氏に、初の「特別名誉会員」の称号を授与。2019年5月19日に開催した「岡山大学創立70周年記念式典」にて「特別名誉会員記」と記念のレリーフを贈呈した。



記念講演開催

「リーダーの資格と生きざま」

「田中角栄元首相生誕100周年に想う」

当日は、記念講演として「リーダーの資格と生きざま」田中角栄元首相生誕100周年に想う」をテーマに、小長氏がこれまで歩んで来た道のり、本学への想いなどを語っていただいた。

小長氏は、戦後間もない昭和24年（1949年）、旧制第六高等学校から第一期生として岡山大学へ入学。県外へ進学する選択肢もあった中、あえて地元へ残る道を選んだとのこと。「文武両道」を掲げる本学において、弁論部とボート部に所属し、「4年間の大学生活で生涯の友を得ることができた」と振り返るほど、実りある熱い青春時代を岡山の地で過ごした。

卒業後は通商産業省へ入省。「資源のない日本の生きる道は、貿易立国しかない」という強い信念が小長氏を同省へ進ませた。入省後は、5回の異動を経て、田中角栄通産大臣秘書官を拝命、その後、内閣総理大臣に登り詰めた田中角栄氏の総理大臣秘書官としてさまざまな局面で辣腕を振るった。

講演では、秘書官時代のエピソードを中心に、「東洋の奇跡」とまで言われた日本の高度経済成長、田中角栄元首相の右腕として編さんに取り組んだ「日本列島改造論」の誕生秘話、そして何よりも昭和を代表する稀代のリーダー「田中角栄」の間像とその生きざまを心熱い珠玉のエピソードとともに披露してくださった。

「庶民宰相」「今太閤」と称された田中角栄元首相。卓越したリーダーシップの持ち主だった氏が醸す「人間力・構想力・決断力・交渉力・実行力」。昭和を牽引したこの5つの力こそが、令和の時代にこそ必要とされる普遍的な力と小長氏は言い切る。会場を埋めた多くの聴衆者が小長氏の一言ひとりに感銘を受けた1時間。昭和、平成、そして令和へ。未来につながる記念講演となった。



田中角栄氏(右)とともに

人生100年時代、まだまだ現役。これからも母校のために尽くしたい。

「榎野学長を先頭に、岡山大学が積極的に押し進めてきたESDやSDGsなどの取り組みによって、本学の活動が大きな輪となって広がっているのを実感しています。これからも岡山の強み、良さを活かしながら10年、20年先へと飛躍してほしいですね」と語る小長氏。

称号受領についての感想を尋ねると…

「今回、特別名誉会員の称号をいただき、本当に光栄です。ただこれは私個人ではなく、数多の同窓生が支えてくれた結果で、私がかたま代表としていただいただけです。こうした称号をいただくと、一線を退くような印象ですが(笑)、私はまだまだ

現役、これをきっかけにこれからも母校・岡山大学のために尽くしていきたいと思っています」。

御年88歳なれど、声もハツラツ、姿勢も美しい小長氏。健康の秘訣を尋ねると「一日一万歩！」とのこと。今も東京で島田法律事務所に属し、現役の弁護士として活動しているそうだ。

「岡山には年に数回戻っています。戻った際は、いつもJR岡山駅東口にある旧制第六高等学校の銅像(創立100周年を記念したモニュメント)にあいさつしてから目的地に向かいます」と小長氏。言うまでもなく、旧制六高は、現在の岡山大学の源流のひとつ。高下駄に黒マント、制帽を被った六高生が自信に満ちた表情で腕を組むその銅像を見上げるたびに、熱き我が青春時代が蘇ること。

「岡山大学に入れば、新しい挑戦ができる、未来が展望できる。その意欲を私たちOBは全力でバックアップしたい」とあらためて決意を語る小長氏。岡山への、そして岡山大学への思いは今も熱い。



岡山駅東口に立つ「青春感謝」像

こなが けいいち
小長 啓一氏



岡山県出身、岡山大法文学部卒。1953年、通商産業省に入省。71年に通産大臣秘書官、72年に首相秘書官。86年、通産事務次官を最後に退官。その後、アラビア石油株式会社取締役社長やAOCホールディングス株式会社取締役社長、同相談役を歴任。現在は、一般財団法人産業人材研修センター理事長、島田法律事務所弁護士。



首相官邸秘書官室にて(1974年)



旧ソ連のブレジネフ書記長(左端)との握手を待つ小長氏(右から2人目)



平成31年度岡山大学入学式 大学院入学式を開催

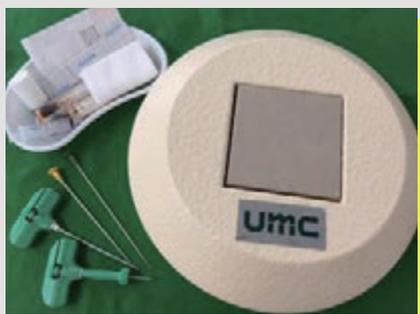
CEREMONY

4月2日、入学式をジップアリーナ岡山で開催し、学部・大学院生ら計3,363人の新入生がキャンパスライフの第一歩を踏み出しました。

榎野博史学長が「どうか自分を信じ、常にCuriosity(好奇心)を忘れずに、将来への大きな夢と希望に向かって大学生活を送ってください」と式辞。新入生を代表して歯学部の青山拓未さんが「これから迎える新たな時代の先駆者となるべく、仲間と共に頑張りたいと思います」と宣誓しました。

骨髄穿刺・骨髄生検のトレーニングキット 「骨髄戦士セイケンジャー」を製品化!

DEVELOPMENT



岡山大学病院の西森久和助教は、コルクメーカー内山工業株式会社との産学連携研究によって、骨髄検査のトレーニングキットを製品化しました。

骨髄検査には「骨髄穿刺」と「骨髄生検」の2つの検査があり、血液の腫瘍診断などに重要な役割を果たしますが、手技習得のための練習器具はこれまでにありませんでした。

そこで、「骨髄質」と「骨皮質」にそれぞれ「コルク」と「硬質樹脂」を使って骨髄穿刺針を刺す感覚を再現。骨髄生検針を使い「コルク」を

針の中に捉えて採取する骨髄生検のトレーニングまで可能なキットを開発しました。製品名の「骨髄戦士セイケンジャー」は、「穿刺」と「戦士」をかけ、「生検だ」を岡山弁で「セイケンじゃ」と表現。血液内科医を目指す人材輩出のための教育素材として考案しました。

PICK UP!

SDGsウェブサイト リニューアル!



SDGsの達成に向けた本学の取組事例や活動実績などを国内外に発信するウェブサイトをリニューアルしました。SDGsの達成に向け、本学の教職員や学生らが取り組んでいる研究・教育などの事例を230件掲載。研究者や教育機関の皆さまはもちろん、中高生や大学生、地域の皆さまにも広くご利用いただけるページを目指しました。

SDGsウェブサイトはこちらをご覧ください。

<https://sdgs.okayama-u.ac.jp/>



PICK UP!

新執行部紹介

榎野 博史 学長

高橋 香代 理事(企画・評価・総務担当)

佐野 寛 理事(教学担当)・総括副学長

那須 保友 理事(研究担当)・副学長

渡邊 和良 理事(財務・施設担当)・事務局長

金澤 右 理事(医療担当)・岡山大学病院長

青山 竜文 理事(特命(経営力強化)担当)(非常勤)

加賀 勝 副学長 特命(社会連携)

神例 康博 副学長 特命(法務・コンプライアンス)

横井 篤文 副学長 特命(海外戦略)

菅 誠治 副学長 特命(理工系改革)

門田 充司 副学長 入試改革

木村 邦生 副学長 国際

狩野 光伸 副理事 SDGs推進

青尾 謙 副理事 企画・評価・総務

伊野 英男 副理事 教育

古矢 修一 副理事 研究

佐藤 法仁 副理事 経営力強化

小村 俊平 学長特別補佐

菅 裕明 エグゼクティブ・アドバイザー

オランダ・ライデン大学の留学生を受け入れ

GLOBAL



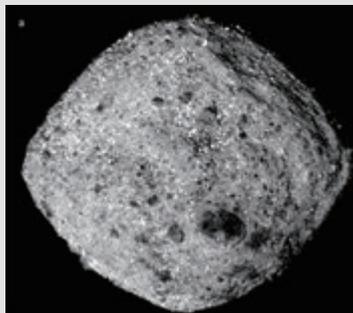
オランダ・ライデン大学の留学生が本学で日本語・日本文化を学ぶ「岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラム」を、4

～6月に実施しました。ライデン大学は、1575年にウィレム1世により設立された、欧州最古の総合大学のひとつ。欧州で最初に日本学科を設立した大学としても有名です。

留学生24人は、4月1日に桑の木寮に入寮。本学グローバル人材育成院コース所属の学生を中心にパティを組み、日本語のコミュニケーションスキルを学んだほか、座禅や写経、茶会体験、バイオマス発電所や備前長船刀剣博物館の見学などを通して、地域文化研究も行いました。

米国探査機の観測データから、小惑星ベンヌの表面の様子を解析 反射度分布や粗さなど予想外の特徴が明らかに

RESEARCH



NASAの宇宙探査機オシリス・レックスが探索を行っている、地球近傍小惑星ベンヌは、初期地球に水や生命の原材料である有機物をもたらした可能性のある、始原的物体の代表的なものです。岡山大学惑星物質研究所のMatthew Izawa助教を含むオシリス・レックス研究チームは、探査機が行った初期観測の結果をもとにベンヌ表面の分析を行い、磁鉄鉱の局地的な集中や、サンプル採集を困難とする小惑星表面の予想以上の粗さなど、いくつかの予期されていなかった特徴を発見しました。本研究結果は3月19日英国時間午後5時30分(日本時間20日午前2時半)、英国の学術誌「Nature」のAdvance Online Publicationとして掲載されました。

後5時30分(日本時間20日午前2時半)、英国の学術誌「Nature」のAdvance Online Publicationとして掲載されました。

岡山県と「大学と連携した地域産業振興」に係る協力に関する協定を締結

CEREMONY

3月25日、岡山県と「大学と連携した地域産業振興」に係る協力に関する協定を締結しました。本協定は、岡山大学と岡山県が、県内企業の技術開発及び大学の教育・研究を促進するとともに地域活性化につなげることを目的とし、相互に協力していくために締結しました。

岡山県庁で行われた締結式には、榎野博史岡山大学長、伊原木隆太岡山県知事、立会人として中島博岡山県経済団体連絡協議会会長が出席。三者が協定書に署名した後、今後の協力を誓い堅い握手を交わしました。

本協定に基づき岡山県は、本事業に係る拠点として「企業と大学との共同研究センター(仮称)」を今秋、本学構内に設置予定。企業と大学とのマッチング支援や複数の企業及び研究者との連携構築に取り組むほか、企業人材を育てるための寄付講座の開設などを予定しています。



平成30年度岡山大学学位記等授与式を挙行

CEREMONY



3月25日、平成30年度学位記等授与式をジップアリーナ岡山で行い、学部生・大学院生ら計3,235人の門出を祝福しました。

式では国歌・学歌斉唱に続き、榎野博史学長が学部・研究科などの総代22人に学位記・修了証書を授与。榎野学長は式辞で「皆さんがこれから何かの課題に直面した時には、ぜひ岡山大学で修得した『課題解決の遺伝子』を思い出し、それを十分に活用していただければと思います」と述べました。卒業生・修了生を代表し、文学部のジョウシンリーさん、大学院法務研究科の岩田杏子さんが答辞を述べました。

卒業生・修了生を代表し、文学部のジョウシンリーさん、大学院法務研究科の岩田杏子さんが答辞を述べました。

大学の動き(2019年2月～5月)

- | | | |
|-----|---|--|
| 2月 | 1日 | ●「SDGsセミナー in 岡山」で本学のSDGsの取り組みについて講演 |
| | 12日 | ●馬建鋒教授が「平成31年度日本農学賞」の受賞決定 |
| | 14日 | ●美作大学で本学のSDGsの取り組みについて講演 |
| | 17日 | ●「SDGsフォーラム in 岡山2019」を開催 |
| | 23日 | ●岡山大学病院で脳死肺移植100例目10歳未満女児へ |
| 3月 | 2,3日 | ●理学部生物学科学生2人が、第8回サイエンス・インカレで表彰 |
| | 14日 | ●大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構と覚書を締結 |
| | 15日 | ●平成30年度「岡山大学 学会賞等受賞者表彰授与式」を開催 |
| | 19日 | ●岡山大学惑星物質研究所がカーネギー研究機構・地球物理研究所と国際連携協定を締結 |
| | 22日 | ●「学生文化奨励賞・学生スポーツ賞」授与式を挙行 |
| 25日 | ●岡山県と「大学と連携した地域産業振興」に係る協力に関する協定を締結
●平成30年度岡山大学学位記等授与式を挙行 | |
| 4月 | 1日 | ●国際研究拠点形成プログラム(RECTOR)を開始 |
| | 2日 | ●平成31年度岡山大学入学式、大学院入学式を開催 |
| | 9日 | ●「岡山×SDGsプロジェクト」シンポジウムで榎野学長が討議 |
| | 17日 | ●赤木剛士准教授(農)が文部科学大臣表彰を受賞 |
| 5月 | 19日 | ●岡山大学創立70周年記念式典・祝賀会を開催 |

学外・地域の方も
利用可能

岡大グルメピックス&スポット案内

FOOD

学生×生協のコラボでTFTメニューが誕生!

TFTメニューの一例
ライス(S)と
味噌汁付きで
440円

ピーチユニオン3階で、開発途上国の子どもの給食を支援するTFT(TABLE FOR TWO)メニューの提供が始まりました。本学学生のアイデアが、岡山大学生活協同組合の協力により実現しました。

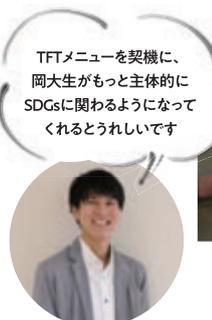
TFTは日本発の社会貢献運動で、先進国の参加者と開発途上国の子どもたちが時間と空間を越え食事を分かち合うことで、先進国の飽食と開発途上国の飢餓の同時解決を目指すというものです。TFT対象のメニュー・食べると、代金のうち20円が寄付金となり、TFT事務局を通してアフリカ・アジアの子どもたちへ給食が届けられます。

TFTメニューは、日替わりのメインと小鉢が2つ付いて311円。ライス(Sサイズ)と味噌汁をセットにしても440円です。TFTヘルシーメニュー・ガイドラインにある「カロリー730kcal程度の野菜が多いヘルシーなもの」という条件も満たすように作られています。日本でのヘルシーな食事1食が、アフリカ・アジアで子どもたちの温かい給食1食につながる仕組みです。皆さんもヘルシーランチで気軽にTFTに参加してみませんか?

TFTメニューは、本学が推進しているSDGs(持続可能な開発目標)
17の目標のうち、7つの実現を目指しています。



豚肉のわさび醤油焼き、切干大根、おくらとツナの和えもの



提案者
経済学部2年 中澤拓也さん

TFTメニューを契機に、
岡大生がもっと主体的に
SDGsに関わるようになって
くれるとうれしいです



岡山市北区津島中2-1-1
☎086-256-4106 ☺11:00~13:30
Ⓜ土日祝、大学の休業日
※2階は営業時間が異なりますので、HPをご覧ください。

SHOP

100%岡大農場産!旬の新鮮野菜の販売所



農学部附属山陽圏フィールド科学センター内の販売所では、地域の方との交流の場として農産物の直売を行っています。米や野菜・果物のほか、花やハーブの苗なども豊富に並びます。これからの季節は、モモやブドウをはじめ、トマトやトウモロコシなどの夏野菜も続々と登場!クウシンサイやツルムラサキなど珍しい野菜もありますよ。

岡山市北区津島桑の木町1-62
☎086-251-8392 ☺13:30~14:30
Ⓜ土日祝、夏季一斉休業、年末年始
※9~11月の第4水曜はテラスカフェで「ファームマーケットin」テラスを実施予定

黄色い看板が目印!



多肉植物のアレンジや
花の苗の販売も



BAKERY

焼きたてパン「ベーカリーNico」がオープン!



岡山大学病院中央診療棟1階にテイクアウト専門のパン屋がオープンしました。店内には北海道産小麦100%、保存料無添加の焼きたてパンがずらり。良い香りに誘われて、開店時には、焼きたてパンを求める人々でにぎわっています。人気は、岡山ジャージー牛乳とアルムの卵を使った「自家炊きカスタードクリームパン」162円や、シンプルながらも優しい味わいの「塩バターロール」108円。卵不使用のものや、全粒粉、米油を取り入れた商品など、健康を意識したメニューもそろえています。季節限定商品もあるので、ぜひのぞいてみてください。

焼きたて
パンが
20種類!



岡山市北区鹿田町2-5-1
☎086-235-7968 ☺9:00~17:00
Ⓜ土日祝



学 章

岡山大学広報 いちよう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発行 : 岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

<https://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

